

Vol.217 2013.4.1

かわ

Contents



わがまちのかわP1~P2

◎No.17 宮若市/犬鳴川

平成24年度 水防功労者国土交通大臣表彰 P3

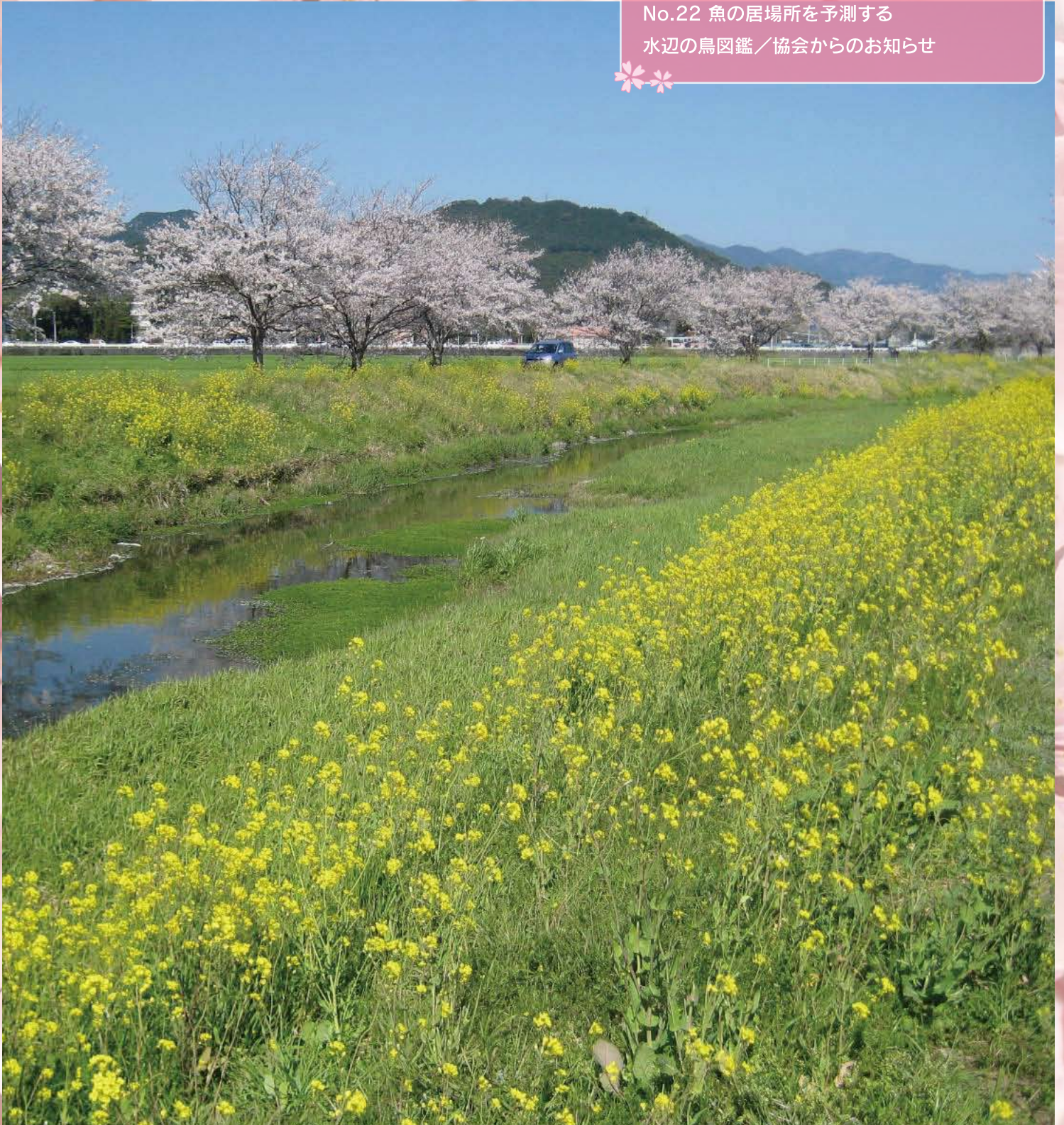
平成24年7月九州北部豪雨 P4~P6
(災害の状況と復旧の状況)

平成24年度 福岡県災害復旧実務講習会 P7

キッズ質問コーナー P8

福岡の身近な川とさかなを知ろう P9~P10
No.22 魚の居場所を予測する

水辺の鳥図鑑/協会からのお知らせ



わがまちの かわ

第17回

みや わかし 宮若市

犬鳴川 (いぬなきがわ)

犬鳴山を源流とする犬鳴川は、犬鳴川河川公園や千石峡、脇田地区などの良好な河川空間があり、市民の憩いの場になっています。宮若市ではその美しい河川を守るために、住民と行政が一丸となって取り組んでいます。

【Good point】 渓谷美を映し出す 豊かな流れ

犬鳴川は福岡地区との分水嶺である西山を水源としています。市の中心部で八木山川と合流し、直方市で遠賀川へ合流する、流域面積124キロ平方メートルを誇ります。

犬鳴川・八木山川が貫流する宮若市は、三郡山系の山々がおりなす美しい稜線や田園風景の広がる山紫水明のまちです。また、犬鳴ダムや力丸ダムを有することから北九州市などの水がめとなっており、水資源も大変豊富です。

上流は山々の清流が流れ込むことから、アユなどの渓流釣りを楽しむことができます。さらに、脇田地区では遊歩道も整備され、四季折々の風景を楽しむことができます。



市民と企業、行政が交流する協働のまちづくりの舞台へ

市域のほぼ中央を流れる犬鳴川。市民の皆さんのいこいの場としてだけでなく、協働のまちづくりの舞台として親しまれています。

犬鳴川みどりの会では、河川公園の建設段階から行政と連携して取り組んできました。最近では、トヨタ自動車九州株式会社の社員の皆さんの協力や、福岡県が推進している広域連携プロジェクトなど、これまでにない新しい団体の皆さんとの交流が進んでいます。

平成20年2月から1年にわたって、市民と国土交通省、福岡県直方土木事務所、宮若市が犬鳴川の将来像を語り合い、「犬鳴川かわまちづくり夢プラン」を作成しました。この夢プランは、河川やその周辺の環境整備、維持管理を市民と行政機関が協働で行っていくための指針になるものです。その1つとして、黒目地区には、「さくら堤公園」の建設が進んでいます。このように、市民の思いは着実に「カタチ」となって実現しています。

春には桜や菜の花が彩り、夏には子どもにとって最高の遊び場へ。秋には彼岸花が美しい犬鳴川。私たちにとってなくてはならない母なる川です。



犬鳴川みどりの会



「自分たちのまちは自分たちの手でつくっていく」を理念に、犬鳴川河川公園づくりに奉仕的精神をもって参加することを目的として、平成7年に発足した犬鳴川みどりの会。約18年経った現在では、正会員約130人、賛助会員約70人の会員を擁する住民団体として活動を行っています。

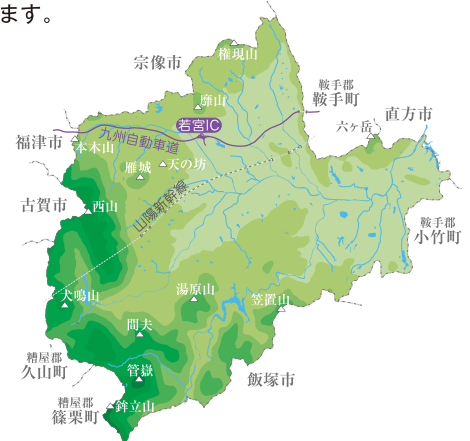
設立当初は、公園計画の策定段階から住民の意見を公園づくりに反映させるため、ワークショップを中心に具体的な問題解決策や楽しい公園計画を策定しました。

現在でも、毎月1回の除草作業のほか、春には犬鳴川桜まつりや秋のいも煮会など、イベントなどを行いながら、美しい公園環境を維持しています。

ひと・みどり・産業が輝く 新たなふるさと 宮若市

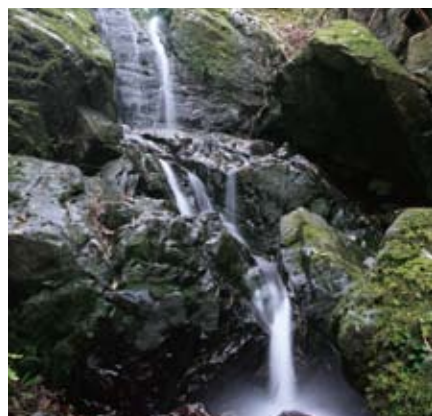
宮若市は、福岡市と北九州市の両政令指定都市のほぼ中間に位置し、九州自動車道若宮インターチェンジを利用すると両都心に40分でアクセスすることができます。

市の面積は139.99平方キロメートル。市の西部から南部にかけて、太宰府県立自然公園に指定されている三郡山系が連なる盆地となっています。日本の近代化を支えた石炭産業から北部九州の自動車工業の拠点になるまで成長した宮田地区。脇田温泉や竹原古墳など、歴史文化、観光がしっかりと継承されている若宮地区。2つのまちが1つになった宮若市は小さくても「キラリ」と輝く水と緑に恵まれたまちです。





初夏には犬鳴川上流でほたるを観賞することができます。



【上】犬鳴の山に1歩入れば、手付かずの自然がたくさんあります。【右】春の犬鳴川桜まつりではエコキャンドルが幻想的な光景を作ります。



秋にはJR九州バスが主催するウォーキング大会が行われています。犬鳴川流域の自然と宮若市の郷土料理を楽しむことができます。



八木山川

倉久川

有木川

山口川

犬鳴川

平成24年度水防功労者 国土交通大臣表彰

平成24年7月九州北部豪雨等において、水災の防止・軽減にすぐれた功績を挙げられた団体・個人に対し、平成24年11月30日に国土交通省にて表彰式が行われました。

福岡県からは久留米市消防団、柳川市消防団、八女市消防団、筑後市消防団、うきは市消防団、朝倉市消防団、みやま市消防団の7団体が受賞されました。



久留米市消防団



柳川市消防団



八女市消防団



筑後市消防団



うきは市消防団



朝倉市消防団



みやま市消防団



記念撮影(国土交通省提供)



平成24年7月九州北部豪雨と 施設復旧状況について

平成24年7月11日から14日にかけて、九州北部から本州付近に停滞した梅雨前線に向かって、非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に断続的に非常に激しい雨が降りました。

特に13日から14日にかけて福岡県では大雨となり、県南部では総雨量で600mmを超える大雨となりました。

この雨は、「平成24年7月 九州北部豪雨」と呼ばれ、この降雨の影響で県南部では甚大な被害を受けました。



平成24年7月11日から7月14日までの総雨量

平成24年7月 九州北部豪雨による被災状況



小塩川



猪位金川



星野川



白木谷川

県及び市町村管理河川において、多数の被害が発生しましたが、災害復旧事業制度を活用しながら、早期復旧に向けて工事進捗を図っています。



二級河川仲山川



矢部川水系における主な災害対策事業

平成24年7月14日の梅雨前線豪雨により甚大な被害が発生した矢部川水系の河川について、国土交通省から河川激甚災害対策特別緊急事業、河川災害復旧助成事業及び河川災害関連事業の採択を受けました。

今後、河川激甚災害対策特別緊急事業、河川災害復旧助成事業については、概ね5年間で集中的に河道掘削、築堤などの河川工事を実施し災害の軽減・防止を図ります。

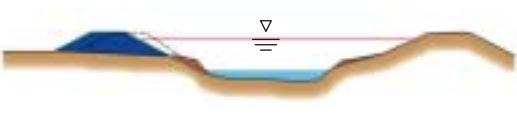
また、河川災害関連事業については、概ね3年間で集中的に河道掘削、築堤などの河川工事を実施し災害の軽減・防止を図ります。



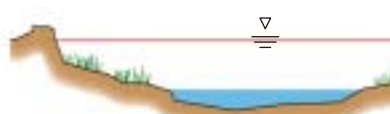
- 採択を受けた主な事業
- 河川激甚災害対策特別緊急事業
 - ・沖端川(柳川市筑紫町～みやま市瀬高町)
 - 河川災害復旧助成事業
 - ・矢部川(八女市柳島～八女市黒木町)
 - ・星野川(八女市柳島～八女市星野村)
 - ・笠原川(八女市黒木町～八女市黒木町)
 - 河川災害関連事業
 - ・龍川内川(八女市星野村～八女市星野村)
 - ・横山川(八女市上陽町～八女市上陽町)
- ※その他 筑後川水系でも河川災害関連事業の採択を受けています。

- 現況河道
- 計画河道(築堤) ■ 計画河道(掘削)

沖端川 代表横断面図
(中山下妻橋下流左岸決壊箇所)

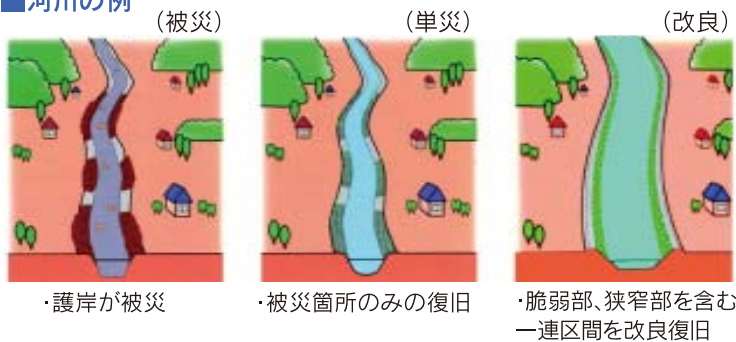


矢部川 代表横断面図



改良復旧事業のイメージ

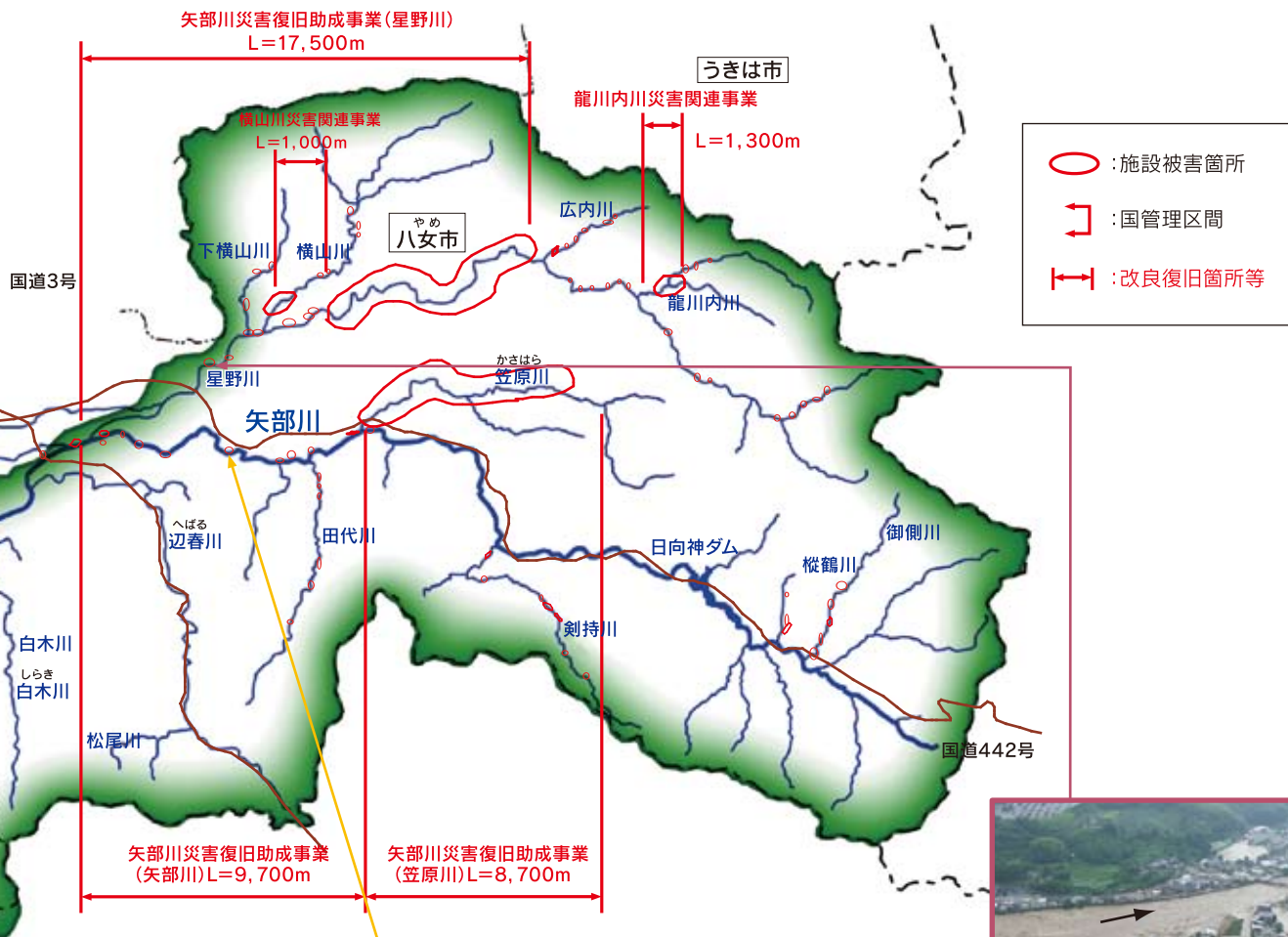
■河川の例



※河川激甚災害対策特別緊急事業
洪水、高潮等により激甚である災害が発生した地域において、概ね5箇年で河川の改良を実施する事業。

※河川災害復旧助成事業
災害が甚大であって、災害復旧工事のみでは十分な効果を期待できない河川において、概ね5箇年で河川の改良を実施する事業。

※河川災害関連事業
被災箇所を含む一連の施設について、概ね3箇年で河川の改良を実施する事業。



星野川 代表横断面図



平成24年度 福岡県災害復旧実務講習会 (第2回)の報告

平成25年1月16日(水) 10:20~16:35 於:(財)福岡県建設技術情報センター

平成24年度福岡県災害復旧実務講習会(第2回)(主催:福岡県河川協会)が開催され、県内各市町村・県土整備事務所の担当者約100名に参加しました。

平成24年災の総括から始まり、午前中は交付申請手続きと精算・成功認定及び繰越手続きについて、午後からは、災害発生から災害査定までに必要となる手続きや申請時の注意点、災害復旧工事の設計・積算における留意事項及び、平成24年に改定となった事項について、県の担当者から説明がありました。

また、災害査定の事例紹介として、福岡県土整備事務所と添田町から発表して頂きました。

福岡県土整備事務所からは、管内における施設の被害状況の説明があり、具体的な事例として、二級河川仲山川で被災を受けた箇所での被災状況、復旧工事の概要などを図面と写真で分かり易く発表して頂きました。

添田町からは、道路災害の事例を発表して頂き、災害査定当時の査定官、立会官とのやりとりを交えながら、説明に苦労した点や今後、改善した方が良かった点を図面と写真で分かり易く説明して頂きました。

最後に、国土交通省九州地方整備局より、災害査定における留意事項について講義して頂きました。講義の中では過去の災害査定事例を使いながら、参加者へ質問される形をとられ、参加者の方も



緊張しながら答えられる場面もありましたが、とても有意義な講習会となりました。

今回の講習会を、今後の査定、被害状況収集時の参考として頂き、迅速かつ適切な災害復旧が行われる一助となればと考えております。また、本年度も各種講習会を予定しており、初任者の方から経験者の方まで幅広く参加できるように考えておりますので、皆様の参加をよろしくお願いいたします。





キッズ質問コーナー



- Q1** 高屋川に(1)ザリガニはいますか。
(2)コイは、いつごろからどういう理由で放流されていますか。
放流されたのはなんびきですか。

A (1)日本には、日本固有種の日本ザリガニとアメリカから入ってきた外来種のアメリカザリガニが住んでいます。
アメリカザリガニは、日本に入った後、分布域を広げ、現在では日本全国に住むようになりました。したがって、高屋川にはアメリカザリガニが住んでいると考えられます。

(2)上高屋小学校の比較的近くに京二川漁業協同組合(京二川魚協)があります。京二川魚協では、高屋川の本流である今川や祓川の魚を増やすためにアユ、ウナギなど色々な魚を放流しています。コイは、昭和30年頃から放流が行われていますが、現在は中止しています。平成15年にコイの病気が日本全国の川や湖、池で発生し、たくさんのコイが死にました。この病気は伝染力が強いので、今川などにコイを放流すると、その病気にかかり死ぬ恐れがあるので、放流を中止しています。中止する前には、今川と祓川に併せて約1万尾を放流していました。川の水域面積は、海に比べてはるかに狭いため、魚を育てる力が弱く、また、魚を採りやすいため、資源が枯渇する恐れが大きいので、魚を増やす努力をする必要があります。このため放流をしているのです。

- Q2** 福岡県内には何本くらい川がありますか。
- A** 福岡県内には、1級河川192河川、2級河川系149河川、準用河川302河川の計643河川が流れています。

- Q3** 日本で一番川の多い都道府県はどこですか。
- A** 一級河川、二級河川ともに、北海道が一番多いです。

- Q4** 川はどうして「かわ」という呼び名がついたのですか。

A 「かわ」の語源についてはいろいろな説があって、朝鮮語のケ(川)との関係を指摘する説があります。また、水の流れる音を「がはがは」と形容した擬音に基づくとする説もありますが、不明のようです。

- Q5** 1年中でどの時期が一番水量が多いのですか。

A 一般的に集中豪雨の多い梅雨の時期や台風の時期である6月~10月頃が河川の水量も多いと考えられます。

- Q5** なぜ川は曲がっているか。

A 川の水が流れのなかで浸食したり、堆積したりしてできる曲線が、川の蛇行を作ります。川が曲線をえがいている場所では、水の遠心力を受けて、内側の岸近くよりも、外側の岸近くの流れが速くなります。そのため、外側の岸の土砂をけずり取り、その下流の内側の岸にその土砂を堆積します。どの川岸でも、一方はけずり取られ、もう一方の川岸が増築され、それが交互に行われるので、この川の蛇行はあらゆる川に共通した特徴といえます。

(出典:河川管理統計、福岡県内水面漁業協同組合連合会、インターネット情報外)

福岡県河川協会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 福岡県土整備部河川課内

TEL 092-633-2826 FAX 092-643-3669

ホームページ <http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>



ふくおかの身近な川と さかなを知ろう

No.22 魚の居場所を予測する

今 福岡県では、通称レッドデータブック、「福岡県の希少野生生物」の改訂作業が行われています。私は、そのうちの「魚類」の担当委員です。魚類の分布情報を集め、過去と比べてどれくらい分布域が狭まったのか等を検討して、その絶滅の危険性を評価する作業、そして、それらがどのような影響を受けているのか、例えば、河川改修や農業用水路のコンクリート護岸化、侵略的外来生物の影響などを検討する作業を行っております。前回の発行は2001年。当時は、学術知見としての魚類の分布情報が少ない中での作業だったそうです。今回は、野生生物保全に対する社会的な関心の高まりなどもあり、多くの研究者が魚類の分布を調べて、情報を発信してくれているおかげで、当時に比べて分布情報が充実しました。そのため、前回評価時よりも絶滅の危険性が低いと判断されるような魚種も幾つか見られております。しかしながら、逆に危険性が高まった魚類も見られます。例えば、ニッポンバラタナゴ。Vol.201で紹介したように、環境省外来生物法で要注意種に指定されるタイリクバラタナゴの侵入によって、その分布域は狭められ、当時に比べて絶滅の危険性が高まっていると判断されました。

さ て、最近、地理情報システム(GIS)が急速に発達しております。みなさんがよくご存じのカーナビなんかをご想像いただければ、ご理解いただけるものと思います。そして、そういった技術を駆使して、希少な野生生物の分布域として重要度の高い場所を選定したり、侵略的外来生物の分布拡散予測を行ったりできるようになってきました。先にお話ししましたニッポンバラタナゴ。分布情報とGISから抽出した環境情報で、その潜在的分布域を予測できるようになりました。また、ニッポンバラタナゴを危機に追いやっているタイリクバラタナゴについても、その潜在的分布域を予測可能となりました。そして、両者の潜在的な分布域の重ね合わせによって、ニッポンバラタナゴの生息域の中で、タイリクバラタナゴの侵入リスクが高い地域および侵入リスクが低い地域を特定することができるようになりました。カセットゲタナゴ(Vol.196で紹介)やセボシタピラなどの九州北部にしか生息しない九州固有の魚の分布予測も可能となり、そういった予測結果を重ね合わせ、高い生物多様性を持つ場所を推定できるようになっております。

さ て、2011年に名古屋で行われた生物多様性条約締結国会議(COP10)において、「陸域・内陸水域の17%、沿岸域・海域の10%相当の保護地域等による保全」、「絶滅危惧種の絶滅・減少防止および減少著しい種に対する保全状況の維持・改善」、「遺伝子の多様性維持とその保護戦略の策定と実施」等、2020年までの達成目標が掲げられました。そして、

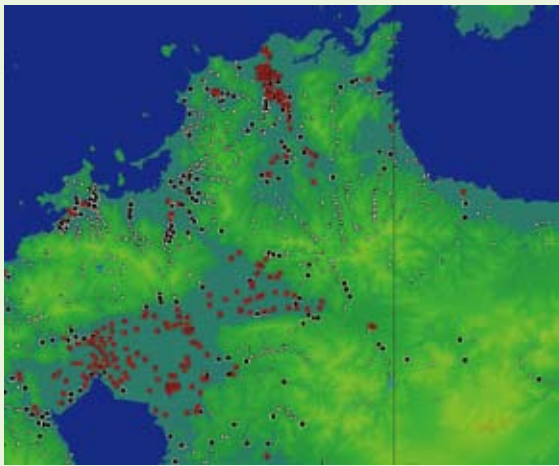


図1. 絶滅危惧種ニッポンバラタナゴ(○)と外来種タイリクバラタナゴ(■)の分布予測。タイリクバラタナゴが侵入し、ニッポンバラタナゴの生息場が失われるリスクが高い地点を■で示した。

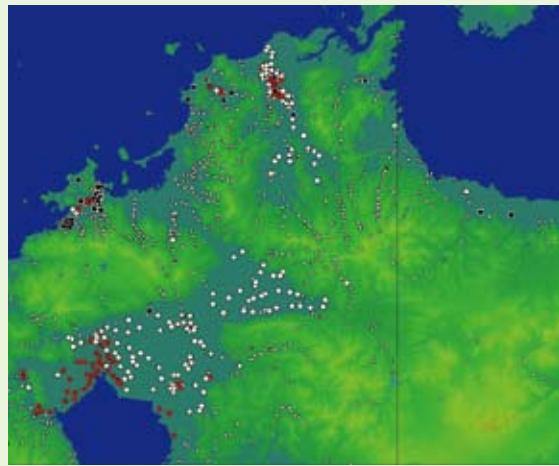


図2. 九州の在来タナゴ類の予測種数(○:0種, ■:1-3種, ●:それ以上)マップ。セボシタビラが自然分布しない県東部の最大理論値は5種、県西部は6種。あくまで、理論種数であるものの、予測種数の多い個所はこれらの保全における重要個所と判断される。

それらを達成するために、先に述べたような解析技術が着目され始めています。希少な野生生物の種数が多い場所を推定し、そこを国や地方公共団体が指定する自然公園などの保護区域にすることができれば、絶滅の危機に瀕する魚たちの将来が保障されるかもしれません。今のところ、淡水魚類の種多様性が高い場所は自然公園や鳥獣保護区域とはほとんど重なりません。それゆえに、我々研究者は魚類の保全に寄与できる情報を積極的に開示すること、そして、行政担当者はそういった情報を積極的に利用して保護区域の策定に努めていくことが必要だと思います。

コ ういった保護区を設定するなどの施策は、野生生物の生息の場を守るという視点なのですが、あと、もうひとつ。今後は、野生生物そのものを守る行為も必要となるでしょう。今日紹介した魚たちは、淡水魚の愛好家たちから高い人気を得ているタナゴの仲間です。その婚姻色の美しさから、観賞用としての需要が高く、ペットショップやインターネットを通じた売買が行われています。そして、近年、それに関わる業者による希少淡水魚類の捕獲圧が問題視されています。天然記念物クラスの希少な魚の生息地に侵入し、捕獲するような悪質な業者も存在するのですが、多くの場合、そういった捕獲行為を禁止するような法的規定がないため、絶滅危惧IA類に指定されるような極めて危

機的な魚が普通に売買されているといった実情があります。その対策として、滋賀県は、琵琶湖産の希少な淡水魚類の捕獲等を禁止する条例を制定しました。そして、そういった動きは、多くの地方行政に波及しており、九州でも多くの県で着実に進められております。残念ながら、福岡県はまだ制定しておりませんが、、、。福岡県では、レッドデータブック改訂、生物多様性地域戦略の策定など、自然環境に関連した行政担当者は大忙しなのですが、ひと段落した次のステップで、ぜひ、希少野生生物の優先的保全エリアの選定を進め、そこでの希少な魚の捕獲を、そして、できればタイリクバラタナゴのような外来魚類の売買行為を抑制するような条例制定に取り組んでいただきたいと思います。



セボシタビラの雄成魚

鬼倉 徳雄 おにくら のりお

- 九州大学大学院農学研究院・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／

- 有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性(佐藤正典編)
- 干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさと危機(日本魚類学会自然保護委員会編)

水辺の鳥図鑑

草 鶺
クサ シギ

チドリ目シギ科
(学名: Tringa ochropus)



- 撮影者: 犬鳴川流域文化研究会: 中村氏
- 撮影地: 犬鳴川流域

全長約24センチメートル、翼長約14センチメートル、体の上面は灰黒褐色で腰と尾は白い。顔から胸にかけては灰黒色の縦斑(じゅうはん)が密にあり、腹部は白い。川岸、湖沼畔、水田などに単独か数羽でい

ることが多く、水際や浅瀬で小動物をあさる。尾を上下に振ることがあるが、イソシギほど著しくない。チュイチュイチュイという澄んだ声を発して飛び立つ。

協会からのお知らせ

◎河川愛護絵画コンクール

福岡県は、7月を河川愛護月間と定め、河川愛護事業を実施します。この一環として、河川愛護意識の高揚を図るため、小学校児童による河川愛護絵画コンクールを実施します。優秀作品(特選及び一等)は福岡県河川協会総会で表彰を行っています。なお、応募された小学校には、サッカーボール及びドッジボールを寄贈しております。

なお、コンクールの詳細については、後日、県より各小学校へ案内があります。

■平成25年度福岡県災害復旧実務講習会

- ◎日時: 4月25日(木)
- ◎場所: 福岡県建設技術情報センター
- 主催: 福岡県県土整備部河川課・福岡県河川協会

■平成25年度災害復旧実務講習会

- ◎日時: 5月15日(水)~16日(木)
- ◎場所: 東京都・砂防会館別館
- 主催: (社)全国防災協会

表紙の説明

草場川(筑前町)

両岸には満開の桜、
河川敷には菜の花が咲きほこる草場川。



編集
後記

平成25年度となりますが、昨年7月の九州北部豪雨災害から一日も早い復旧・復興を願いながら編集スタッフ全員で取り組みました。(猿渡)

◆STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL: 092-633-2826(直通)
FAX: 092-643-3669
企画 セントラル印刷株式会社